

2025年総会 議案書

2025年5月31日（土）

議 題

1. 2024年度事業報告
2. 2024年度決算報告
3. 2025年度事業計画案
4. 2025年度予算案
5. 規約改正案

日本出版学会

<https://www.shuppan.jp> e-mail : info@shuppan.jp

〒166-0015 東京都杉並区成田東 4-35-23

TEL : 03-3313-7347 FAX : 03-3313-7348

2024 年度事業報告 (2024 年 4 月 1 日～2025 年 3 月 31 日)

1. 概況

1969 年 3 月に設立された日本出版学会は、創立から 55 年をむかえ、新たな時代への歩みを進めている。これまで設立の理念と志を尊重し、円滑な研究者の交流や情報交換をおこない、研究成果の発表のために、学会誌や会報の発行、研究発表会や各種の部会活動、そして国際出版研究フォーラム（IFPS：The International Forum on Publishing Studies）への参加を継続的におこなってきた。

これらが可能となったのは、何よりも学会を構成する会員の方々の努力と、経済的な支援をはじめ様々な便宜をはかっていただいている賛助会員の方々のご協力の賜物であり、ここに改めて深甚なる感謝の意を表したい。

2024 年度における日本出版学会の活動は、それまでの研究や人的交流の蓄積に基づいて着実に進められ、出版研究に対する関心は一層高められた。

特に学会創立 55 周年記念事業を実施するため、2023 年 6 月に、日本出版クラブ会長・デジタル出版者連盟代表理事の野間省伸氏（講談社社長）を委員長とする「創立 55 周年記念事業委員会」を設立し、準備および募金活動をおこない、2024 年 11 月 8 日に日本出版クラブで創立 55 周年記念講演会・祝賀会を、翌 11 月 9 日に第 21 回国際出版研究フォーラムを開催した。

また、2024 年 6 月 8 日には、日本大学法学部神田三崎町キャンパスで、春季研究発表会を開催し、参加者 111 名、4 名の研究発表、2 つのワークショップ、1 つの緊急シンポジウムをおこなった。

2. 会員数

正会員		263名
賛助会員	法人	29社
名誉会員		2名

(2025 年 3 月末日現在)

3. 総会

2024 年総会は、2024 年 6 月 8 日、日本大学法学部神田三崎町キャンパスで 91 名（委任状を含む）の会員が出席、2023 年度事業報告、同決算、同特別会計決算、2024 年度事業計画案、同予算案、同特別会計予算案をそれぞれ審議・可決した。

4. 理事会

2024 年度の会務をおこなうため、2023 年総会から本総会に至るまでの間、理事会を下記のとおり開催した。

第 1 回：	2024 年 6 月 8 日
第 2 回：	2024 年 6 月 27 日
第 3 回：	2024 年 9 月 13 日
第 4 回：	2024 年 12 月 13 日
第 5 回：	2025 年 3 月 5 日
第 6 回：	2025 年 5 月 2 日
第 7 回：	2025 年 5 月 31 日

5. 調査研究委員会

調査研究委員会は、主として各部会間の連絡調整にあたった。各部会の活動状況は次の

とおりである。

(1) 学術出版研究部会

今後の研究課題、部会運営について検討をおこなった。

(2) 雑誌研究部会

10月9日(筑波大学東京キャンパス+オンライン)「明治後期における教育ジャーナリズムの実態と小学校教員にとっての意義」ピーテル・ヴァン・ロメル(日本出版学会賞 受賞記念講演会、出版史研究部会 共催)

10月30日(オンライン)「プラットフォーム型雑誌『ゼクシィ』の再検討——情報誌研究の可能性に着目して」彭永成(日本出版学会賞 受賞記念講演会、出版史研究部会 共催)

(3) 出版アクセシビリティ研究部会

2月25日(専修大学神田キャンパス+オンライン)「生成AIを用いた電子書籍の図版説明の実証的研究」仁科哲、他(主催:画像電子学会 VMA 研究会、視覚・聴覚支援技術研究会)

(4) 出版技術研究部会

5月15日(科学技術館 1階展示ホール)「デジタル対応製本とスマートファクトリー」Horizon Smart Solution Fair 2024 in 東京 見学会

2024年6月10日(専修大学神田キャンパス)「宮田印刷による活版印刷の取組と精興社活版印刷(ビデオ上映)——山口一郎『ことば』『ことば2』(青土社刊)の印刷を題材に」山本千香

12月6日(上智大学四谷キャンパス+オンライン)「いま、学術書にできること——『杉浦康平と写植の時代』をケーススタディに」阿部卓也(日本出版学会賞 受賞記念講演会、出版史研究部会 共催)

(5) 出版教育研究部会

2月15日(オンライン)「知られざる出版業

界の巨人・図書館流通センター」谷一文子(出版産業研究部会・関西部会 共催)

(6) 出版産業研究部会

10月9日(八木書店本社ビル)「紙の本」とは何かを考える——高橋文夫氏の『スマホ時代と「紙の本」』から」高橋文夫

2月15日(オンライン)「知られざる出版業界の巨人・図書館流通センター」谷一文子(出版教育研究部会・関西部会 共催)

(7) 出版史研究部会

10月9日(筑波大学東京キャンパス+オンライン)「明治後期における教育ジャーナリズムの実態と小学校教員にとっての意義」ピーテル・ヴァン・ロメル(日本出版学会賞 受賞記念講演会、雑誌研究部会 共催)

10月30日(オンライン)「プラットフォーム型雑誌『ゼクシィ』の再検討——情報誌研究の可能性に着目して」彭永成(日本出版学会賞 受賞記念講演会、雑誌研究部会 共催)

12月6日(上智大学四谷キャンパス+オンライン)「いま、学術書にできること——『杉浦康平と写植の時代』をケーススタディに」阿部卓也(日本出版学会賞 受賞記念講演会、出版技術研究部会 共催)

(8) 出版デジタル研究部会

9月8日(オンライン)「デジタル出版物制作の教育活用」有山裕美子・徳永修・鷹野凌

(9) 出版編集研究部会

10月16日(オンライン)「科学読み物の企画・編集——〈岩波科学ライブラリー〉を中心に」濱門麻美子

(10) 出版法制研究部会

7月27日(オンライン)「ジャーナリズムを立法・司法・行政に並ぶものと位置づける考え方について」塚本晴二期

(11) 翻訳出版研究部会

6月8日(日本大学法学部神田三崎町キャン

パス)「AI時代の翻訳出版——現在そしてこれから」安部由紀子・山田優・高橋聡・富田健太郎(春季研究発表会ワークショップ)

9月27日(文京シビックホール)「専門書翻訳をアートする——翻訳のプロでない者にできること」北野収

(12) MIE 研究部会

2月6日(跡見学園女子大学文京キャンパス+オンライン)「履修生の声から考えるMIEの「わかりやすい指導」——学生たちは何に苦心して、何を学んだか」白石彩絵・篠原麗・寺尾香乃・徳永里奈・中村菜生子・中村悠海・米村莉乃

(13) 関西部会

2月15日(オンライン)「知られざる出版業界の巨人・図書館流通センター」谷一文子(出版教育研究部会・出版産業研究部会 共催)

6. プログラム委員会

総務委員会と調査研究委員会によって構成される合同委員会を開催し、研究発表会の企画・運営に当たった。

(1) 春季研究発表会(2024年6月8日、日本大学法学部神田三崎町キャンパス)

〈研究発表〉

1. 「京都芸術大学芸術学部文芸表現学科における雑誌編集の5年間 実践と課題」中村純
2. 「叢書論——岩波書店「哲学叢書」「続哲学叢書」の成立過程を事例に」大澤聡
3. 「出版史から見た坪谷善四郎関係資料」長尾宗典
4. 「近世小謡本の編集方法——京都・大坂・江戸・地方の版元に見る時代的・地域的特

色」原 八千代

〈緊急シンポジウム〉

1. 「「書店・図書館等関係者における対話の場」の再検証——学会と出版界連携によるエビデンスに基づく研究の意義」大場博幸・植村八潮・菊池壮一

〈ワークショップ〉

1. 「AI時代の翻訳出版——現在そしてこれから」安部由紀子・山田優・高橋聡・富田健太郎
2. 「出版統計・データの現状と問題点——フレームと収集の再検討」柴野京子・古幡瑞穂・鷹野凌

7. 日本出版学会賞

(1) 受賞図書・論文

第45回日本出版学会賞は、下記のとおりである。

【日本出版学会賞】

阿部卓也 著『杉浦康平と写植の時代——光学技術と日本語のデザイン』(慶應義塾大学出版会)

【日本出版学会賞奨励賞】

ピーテル・ヴァン・ロメル 著『「田舎教師」の時代——明治後期における日本文学・教育・メディア』(勁草書房)

彭永成 著『『ゼクシィ』のメディア史——花嫁たちのプラットフォーム』(創元社)

(2) 日本出版学会賞審査委員会

日本出版学会賞審査委員会は、第46回日本出版学会賞の審査にあたった。

(3) 受賞記念講演会

10月9日(筑波大学東京キャンパス+オンライン)「明治後期における教育ジャーナリズムの実態と小学校教員にとっての意義」ピーテル・ヴァン・ロメル(出版史研究部会・雑誌研究部会 共催)

10月30日(オンライン)「プラットフォーム型雑誌『ゼクシィ』の再検討——情報誌研究の可能性に着目して」彭永成(雑誌研究部会・出版史研究部会 共催)

12月6日(上智大学四谷キャンパス+オンライン)「いま、学術書にできること——『杉浦康平と写植の時代』をケーススタディに」阿部卓也(出版史研究部会・出版技術研究部会 共催)

8. 『出版研究』編集委員会

『出版研究』編集委員会は、学会誌『出版研究』の企画・編集にあたり、第54号(A5判、200頁、600部、定価：本体2,600円+税)を2024年4月に発行し、引き続き第55号(A5判、600部、定価：本体2,600円+税)の編集をおこなった。

9. 広報委員会

広報委員会は、学会活動に関する対外的広報活動を随時おこなうとともに、学会案内の作成、および『日本出版学会会報』の企画・編集にあたり、次の各号を発行した。

第156号=24頁、2024年5月31日(700部)
第157号=28頁、2024年10月10日(700部)

また、公式ウェブサイトの充実をはかり、情報発信をおこなった。

10. 関西委員会

関西委員会は、関西部会の運営にあたった。

11. 国際交流委員会

国際交流委員会は、2024年11月8日に日本出版クラブで開催した創立55周年記念講

演会、11月9日に東京経済大学で開催した第21回国際出版研究フォーラム(IFPS)の企画・運営をおこなった。

〈創立55周年記念講演会〉

1. 「韓国の出版・書店支援政策と書店ビジネスモデルの革新」白源根
2. 「ジャンプ・マンガのデジタル化の歩みと海外への挑戦」細野修平

〈第21回国際出版研究フォーラム〉

テーマ：「出版のデジタル化とグローバルゼーション：新たな出版学のために」

〈第1セッション：表現／編集制作〉

1. 「デジタル時代教科書出版の発展における五問」梁威
2. 「AI時代の出版編集の未来」金希柱
3. 「デジタルアーカイブ時代のエディトリアルとは：人文学オープンデータ共同利用センター(CODH)とジャパンナレッジの共同プロジェクトを手がかりに」鈴木親彦・山崎隆広

〈第2セッション：流通／配信、技術〉

1. 「AI時代の出版プロセス再構築と技術応用」張立科
2. 「人工知能(AI)の時代「出版流通市場」の変化と展望」李完洙
3. 「出版学における木版口絵研究のためのデジタルアーカイブデザイン」常木佳奈

〈第3セッション：思想、歴史、文学〉

1. 「中国ネット文学の海外進出：その歴史・現状と発展戦略」陳丹
2. 「韓国文学の過去・現在・未来：AI時代の新しい出版文献分野の方向性」朴朦救
3. 「角筆から考える出版との関わり」近藤友子

〈第4セッション：法・制度〉

1. 「融合出版の実践と考察」徐雁龍

2. 「出版コンテンツ法・制度の診断と争点：AI時代の出版コンテンツ保護のための戦略」 文智恵
3. 「『読書バリアフリー法』施行後の成果と課題——出版界の取組みを中心に」 野口武悟

12. 「産学連携」プロジェクト

創立55周年関連事業として、出版文化産業振興財団（JPIC）が2024年10～11月にかけて主導する本のイベント「BOOK MEETS NEXT 2024」と相互に連携し、イベントの活性化と新たな人材交流を図った。

13. 役員（2026年度総会まで）

会長＝清水一彦
 副会長＝柴野京子 中西秀彦 山崎隆広
 理事＝飛鳥勝幸 安部由紀子 池下花恵
 牛山佳菜代 榎本周平（事務局次長）
 梶原治樹（事務局長） 駒橋恵子 鷹野凌
 田上雄大 玉川博章 塚本晴二郎 長尾宗典
 中村幹（財務担当） 福嶋聡 星野渉
 本多悟 村木美紀（事務局次長） 元永純代
 森貴志 矢口博之 湯浅俊彦
 監事＝植村八潮 富川淳子

14. 委員会メンバー

（◎＝委員長・部会長、○＝副委員長）

- (1) 総務委員会＝◎柴野京子 牛山佳菜代
 榎本周平 梶原治樹 清水一彦 中西秀彦
 中村幹 村木美紀 森貴志 山崎隆広
- (2) 調査研究委員会＝森貴志
- 学術出版研究部会＝◎森貴志
- 雑誌研究部会＝◎玉川博章 田島悠来
 彭永成
- 出版アクセシビリティ研究部会＝◎野口武悟

池下花恵（担当理事）

出版技術研究部会＝◎矢口博之 ○中村幹
 出版教育研究部会＝◎本多悟 伊藤民雄
 出版産業研究部会＝◎鈴木親彦

星野渉（担当理事）

出版史研究部会＝◎長尾宗典
 出版デジタル研究部会＝◎鷹野凌
 出版編集研究部会＝◎飛鳥勝幸 小林えみ
 吉田拓歩

出版法制研究部会＝◎田上雄大

翻訳出版研究部会＝◎安部由紀子

MIE研究部会＝◎元永純代 ○牛山佳菜代

(3) 『出版研究』編集委員会＝◎塚本晴二郎
 阿部圭介 石沢岳彦 上田宙 織田太郎
 田上雄大

(4) 広報委員会＝◎牛山佳菜代 石川徳幸
 秦洋二

(5) 関西委員会/関西部会＝
 ◎中西秀彦（委員長・部会長）
 村木美紀（副委員長） 中村健（副部会長）
 福嶋聡 森貴志 湯浅俊彦
 磯部敦 秦洋二 山中秀夫

(6) 国際交流委員会＝◎山崎隆広 植村八潮
 榎本周平 富川淳子 星野渉

(7) 日本出版学会賞審査委員会＝◎清水一彦
 富川淳子 石川徳幸 石田あゆ
 柴野京子 鈴木親彦 玉川博章

(8) プログラム委員会＝◎駒橋恵子

日本出版学会2024年度決算報告

以下のとおり報告いたします。

会 長 清水一彦
 副会長 柴野京子 中西秀彦 山崎隆広
 理 事 飛鳥勝幸 安部由紀子 池下花恵 牛山佳菜代 榎本周平 梶原治樹 駒橋恵子
 鷹野凌 田上雄大 玉川博章 塚本晴二郎 長尾宗典 中村幹 福嶋聡
 星野渉 本多悟 村木美紀 元永純代 森貴志 矢口博之 湯浅俊彦

監査は結果公正なものと認めます。

監 事 植村八潮 富川淳子

【 貸 借 対 照 表 】

2025年3月末日現在

資 産 の 部		
科 目	金 額	備 考
現 金	24,772	
振替預金	1,390,513	東京貯金局
普通預金①	421,970	三井住友銀行飯田橋支店
普通預金②	0	三菱UFJ銀行市ヶ谷支店
普通預金③	3,983,136	三菱UFJ銀行神保町支店
普通預金④	655,635	みずほ銀行京橋支店
合 計	6,476,026	
負 債 ・ 資 本 の 部		
科 目	金 額	備 考
前 受 金	0	
未 払 金	0	
前期繰越金	6,380,360	
当期正味財産増加額	95,666	
合 計	6,476,026	

日本出版学会2024年度決算報告

【 収 支 計 算 書 】

自2024年4月1日～至2025年3月31日

収 入 の 部				
科 目	2023年度決算	2024年度予算	2024年度決算	対前年比
入会金	65,000	60,000	60,000	-7.69%
正会員会費	2,305,000	2,200,000	1,995,000	-13.45%
過年度分会費	250,000	250,000	270,000	8.00%
賛助会員会費	1,430,000	1,350,000	1,270,000	-11.19%
研究会収入	99,000	80,000	125,000	26.26%
懇親会収入	235,000	250,000	270,000	14.89%
雑収入	47	500	3,497	7340.43%
図書代金	176,272	150,000	128,128	-27.31%
寄附金	30,000	30,000	30,000	0.00%
当期収入合計 (A)	4,590,319	4,370,500	4,151,625	-9.56%
前期繰越収支差額	5,812,367	6,380,360	6,380,360	9.77%
収入合計 (B)	10,402,686	10,750,860	10,531,985	1.24%
支 出 の 部				
科 目	2023年度決算	2024年度予算	2024年度決算	対前年比
出版研究経費	378,098	650,000	544,858	44.10%
会報製作費	251,020	250,000	254,760	1.49%
ウェブ等広報費	142,870	145,000	145,222	1.65%
研究会費	170,300	170,000	162,915	-4.34%
懇親会費	251,450	300,000	225,000	-10.52%
出版学会賞経費	136,738	150,000	112,992	-17.37%
会議費(理事会・総務委)	0	10,000	0	—
通信費	282,485	280,000	263,648	-6.67%
印刷費	25,200	25,000	26,050	3.37%
旅費交通費	55,640	40,000	0	—
業務委託料	2,244,000	2,244,000	2,244,000	0.00%
備品費	0	0	0	—
事務用消耗品費	28,725	20,000	21,019	-26.83%
諸会費	50,000	50,000	50,000	0.00%
雑費	5,800	5,000	5,495	-5.26%
予備費	0	0	0	—
当期支出合計 (C)	4,022,326	4,339,000	4,055,959	0.84%
当期収支差異 (A)-(C)	567,993	31,500	95,666	—
次期繰越収支差額 (B)-(C)	6,380,360	6,411,860	6,476,026	1.50%

日本出版学会2024年度特別会計

【 収 支 計 算 書 】

自2024年4月1日～至2025年3月31日

収 入 の 部			
科 目	2023年度決算	2024年度予算	2024年度決算
前期繰越金	2,432,808	6,345,318	6,345,318
周年記念事業寄付金（個人）	465,000	100,000	80,000
周年記念事業寄付金（法人）	3,540,000	1,200,000	1,030,000
東京経済大学助成金	0	3,200,000	3,200,000
大会収入	0	300,000	520,000
雑収入	16	200	1,126
合 計	6,437,824	11,145,518	11,176,444
支 出 の 部			
科 目	2023年度決算	2024年度予算	2024年度決算
周年記念事業経費	—	6,000,000	—
大会支出	0	—	7,327,735
印刷費	47,866	—	294,822
通信費	33,600	—	0
事務費	6,235	—	0
雑費	4,805	3,000	7,267
予備費	0	0	0
支出合計	92,506	6,003,000	7,629,824
繰 越 金	6,345,318	5,142,518	3,546,620

【 資 産 状 況 一 覧 】

2025年3月31日現在

資 産 の 部		
科 目	金 額	備 考
普通預金①	3,527,742	三井住友銀行飯田橋支店
小口現金	18,878	
合 計	3,546,620	

2025 年度事業計画 (2025 年 4 月 1 日～2026 年 3 月 31 日)

1969 年 3 月に設立された日本出版学会は、2024 年 3 月に創立 55 周年を迎え、学術研究団体として、確固たる地位を築きつつある。デジタル・ネットワーク社会における出版メディアのあり方は劇的に変化し、出版研究の重要性はますます高まっている。出版研究が新たな段階に入っていると捉え、出版および出版学の射程を広げるとともに、原点を確認する研究活動を進める。

そこで当学会は、従来の出版研究の諸分野の活動を以下のように継続・拡大するとともに、次の世代に対する責任を果たしたいと考えている。

1. 研究活動の推進と充実

① 研究部会活動の推進

当学会の活動がその規模に比較して活発である背景には、多様な部会活動があるといえよう。今後とも会員の期待に応えるべく、さらに積極的な部会活動がおこなわれるように努力したい。

② 研究発表会の拡充

春季および秋季研究発表会において積極的な発表が続いており、活発な議論がおこなわれている。また時代の研究課題に応えるシンポジウム、ワークショップの企画や、基調講演もあり、毎回、多数の参加者を数えている。今後とも、学術的水準向上の観点から、研究発表会をより充実させるため、会員の積極的な発表や会員間の討論の場を増やしていきたい。

③ 学会誌の発行

『出版研究』第 56 号の企画・編集を進め、年度内の発行を予定する。

④ 出版フィールドワークプロジェクト

出版業界の様々な方にインタビューをし、知られざる歴史を書き記すため、また、出版学会に若手の受け皿をつくることを目的として、プロジェクトを立ち上げる。

2. 研究活動のネットワークの拡大

1984 年 10 月に最初の国際出版研究フォーラム(IFPS)が韓国ソウルで開催された。以来、40 年あまりの間に我々は様々な交流を通じて、より内容を深めた議論をおこなう段階に到達している。IFPS の継続運営や海外在住会員との恒常的な連携、また部会活動を通じた国内の研究者間のネットワークも拡大しており、今後も研究交流を進めたい。

3. 会勢と財政の充実

当学会は当初 66 名の発起人によって設立されたが、現在、会員数は約 300 に至った。しかし、学術研究団体としては決して多い数ではなく、その社会的使命を果たすためには、より多くの会員を擁することが必要と思われる。日常の部会活動や各種の刊行物を通じて、会員の獲得、会勢の充実に期したいと考えている。

また、学会財政は、長期にわたって出版

産業の経済活動が停滞していることも要因となっており、厳しい状況にある。ここ数年の経費節減の取り組みによって、現在は均衡を保っているものの、さらなる経費節減を進めている。

4. 広報活動の充実

①『日本出版学会会報』

本年においては2号の発行を予定し、内容の充実を図る。

②ウェブサイトの拡充

ウェブサイトの情報発信力を高め、会員間の情報交換を密にする。また会報との連動によって学会の公知化に資することとする。

5. 日本出版学会賞の審査・授与

学会創立10周年を記念して創設された日本出版学会賞については、その後、毎年継続されており、本年も審査・授与をおこなう。

また、『出版研究』掲載論文を対象に2016年度に新設した「清水英夫賞（日本出版学会優秀論文賞）」は、隔年審査をしており、今回は2026年度に審査・授与をおこなう。

6. 『出版研究』『会報』の電子化

創立50周年事業として開始した『出版研究』及び『日本出版学会会報』の電子化を継続する。なお『出版研究』については、アクセシビリティの実現を目指して研究を継続する。

7. 出版学研究隣接学会・団体等への研究・活動協力

NPO 法人本の学校主催によるシンポジウムへの協力など、隣接する学会・団体との交流を促進し、相互に研究活動を協力を。

なお、昨年まで活動していた「産学連携」プロジェクトは、引き続き出版産業に関わる関連団体と協力しながら活動を続ける。

日本出版学会2025年度予算案

【 収 支 計 算 書 】

自2025年4月1日～至2026年3月31日

収 入 の 部			
科 目	2024年度決算	2025年度予算	備 考
入会金	60,000	60,000	
正会員会費	1,995,000	2,200,000	
過年度分会費	270,000	250,000	
賛助会員会費	1,270,000	1,240,000	
研究会収入	125,000	150,000	
懇親会収入	270,000	400,000	
雑収入	3,497	3,500	
図書代金	128,128	150,000	
寄附金	30,000	30,000	
当期収入合計 (A)	4,151,625	4,483,500	
前期繰越収支差額	6,380,360	6,476,026	
収入合計 (B)	10,531,985	10,959,526	
支 出 の 部			
科 目	2024年度決算	2025年度予算	備 考
出版研究経費	544,858	630,000	
会報製作費	254,760	170,000	
ウェブ等広報費	145,222	145,000	
研究会費	162,915	200,000	
懇親会費	225,000	400,000	
出版学会賞経費	112,992	130,000	
会議費 (理事会・総務委)	0	10,000	
通信費	263,648	280,000	
印刷費	26,050	25,000	
旅費交通費	0	55,000	
業務委託料	2,244,000	2,244,000	
備品費	0	0	
事務用消耗品費	21,019	28,000	
諸会費	50,000	50,000	
雑費	5,495	5,000	
予備費	0	0	
当期支出合計 (C)	4,055,959	4,372,000	
当期収支差異 (A)-(C)	95,666	111,500	
次期繰越収支差額 (B)-(C)	6,476,026	6,587,526	

日本出版学会2025年度特別会計予算案

【 収 支 計 算 書 】

自2025年4月1日～至2026年3月31日

収 入 の 部			
科 目	2024年度決算	2025年度予算	備 考
前期繰越金	6,345,318	3,546,620	
周年記念事業寄付金（個人）	80,000	0	
周年記念事業寄付金（法人）	1,030,000	0	
東京経済大学助成金	3,200,000	0	
大会収入	520,000	0	
雑収入	1,126	5,000	
合 計	11,176,444	3,551,620	

支 出 の 部			
科 目	2024年度決算	2025年度予算	備 考
周年記念事業経費	—	0	
大会支出	7,327,735	—	
印刷費	294,822	—	
通信費	0	—	
事務費	0	—	
雑費	7,267	0	
予備費	0	0	
支 出 合 計	7,629,824	0	
繰 越 金	3,546,620	3,551,620	

日本出版学会規約 一部改正案 新旧対照表

2019年度の理事選挙より、理事の任期制が導入され、連続3期6年までとなった。この改正により、若手研究者の登用等、新陳代謝が図られているが、前回2023年度の理事選挙では、任期制の導入、会員数減少等により、理事定数を確保するのに困難が生じたため、理事定数の改定を提案する。

また、現在、理事選挙は、規定により、郵送のみで投票がおこなわれることとなっているため、郵送での投票が困難な会員に向け、投票方法の改定を提案する。

■ 理事定数について

新	旧
<p>日本出版学会規約</p> <p>(役員)</p> <p>第12条</p> <p>(1) 本学会は、下記の役員をおく。</p> <p>1. 会 長 1名</p> <p>2. 副会長 3名以内</p> <p>3. 理 事 <u>20名以上24名以内</u></p> <p>4. 監 事 2名</p> <p>(規約の施行その他)</p> <p>第30条</p> <p>(1)～(10) (略)</p> <p>(11) <u>この規約の一部改正は、2025年5月31日より施行する。</u></p> <p>理事・監事選任細則</p> <p>(選挙による選出手続)</p> <p>第2条</p> <p>理事定員のうち<u>12名</u>にあたる候補者は正会員の選挙により選出され、残余は会長・副会長および当選した候補者（以下、当選候補者という）によって組織される選考委員会（以下、選考委員会という）が選出する。</p> <p>第7条</p> <p>(1)～(2) (略)</p> <p>(3) 当選を決定するにあたり、得票数が同数のため<u>12名</u>を上まわるときは抽選によってこれを定める。</p>	<p>日本出版学会規約</p> <p>(役員)</p> <p>第12条</p> <p>(1) 本学会は、下記の役員をおく。</p> <p>1. 会 長 1名</p> <p>2. 副会長 3名以内</p> <p>3. 理 事 <u>25名以上30名以内</u></p> <p>4. 監 事 2名</p> <p>(規約の施行その他)</p> <p>第30条</p> <p>(1)～(10) (略)</p> <p>理事・監事選任細則</p> <p>(選挙による選出手続)</p> <p>第2条</p> <p>理事定員のうち<u>15名</u>にあたる候補者は正会員の選挙により選出され、残余は会長・副会長および当選した候補者（以下、当選候補者という）によって組織される選考委員会（以下、選考委員会という）が選出する。</p> <p>第7条</p> <p>(1)～(2) (略)</p> <p>(3) 当選を決定するにあたり、得票数が同数のため<u>15名</u>を上まわるときは抽選によってこれを定める。</p>

<p>第 12 条 (1)～(5) (略) (6) <u>本細則の一部改正は、2025 年 5 月 31 日より施行する。</u></p>	<p>第 12 条 (1)～(5) (略)</p>
---	--------------------------------

■ 理事選挙の投票方法について

新	旧
<p>理事・監事選任細則</p> <p>(選挙による選出手続)</p> <p>第 6 条 (1) 選挙は郵便投票によって行う。 (2) 投票用紙は 2 月 10 日までに、被選挙権者名簿を添えて選挙権を有する会員に郵送される。 (3) 投票は 2 月末日付消印のものまで有効とし、以後のものは無効とする。 (4) 投票は無記名とし、7 名を連記するものとする。 <u>(5) 上に掲げる(1)及び(2)による投票に困難を生じる選挙権を有する会員にあっては、当該会員からの申し出と選挙管理委員会の承認をもって、(1)に記す郵便投票についてはメール等を用いた投票を、(2)に記す被選挙権者名簿についてはメール等を用いた送付等の手段を用いることを認める。</u></p> <p>第 12 条 (1)～(5) (略) (6) <u>本細則の一部改正は、2025 年 5 月 31 日より施行する。</u></p>	<p>理事・監事選任細則</p> <p>(選挙による選出手続)</p> <p>第 6 条 (1) 選挙は郵便投票によって行う。 (2) 投票用紙は 2 月 10 日までに、被選挙権者名簿を添えて選挙権を有する会員に郵送される。 (3) 投票は 2 月末日付消印のものまで有効とし、以後のものは無効とする。 (4) 投票は無記名とし、7 名を連記するものとする。</p> <p>第 12 条 (1)～(5) (略)</p>